



Rotary

寒川ロータリークラブ



子どもたちと寒川の未来をつなごう ～さらに先の50年へ～
『応援しよう 寒川の子どもたち』

事務所: 〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山7番地 サンワビル2F
TEL 0467(73)0046 FAX 0467(74)0027
例会場: 寒川神社参集殿 例会日: 月曜日 18:30
会長 小澤千明 幹事 中野雅之

会報委員(クラブ管理運営委員会)

石丸博久 眞原 浩 石井峻太 石腰 亮 井上 稔 入澤 章 加藤幹広 三澤京子 吉田武史

第2309回例会 2025年1月20日(月) 晴れ

司会 島村副幹事

斉唱 奉仕の理想

ソングリーダー 三澤クラブ管理運営委員

会長の時間 小澤会長

はがきを1枚紹介します。先日の賀詞交歓会に来てくださった交換学生のカミーユさんから「小澤会長様 先日は寒川ロータリークラブの例会に出席させていただいた上バナーを送っていただきありがとうございました。留学生活がんばります。」自分で日本語で書いて送ってくれました。嬉しいですね。さて、今日は暦の上では大寒ですが、とても暖かい一日となりました。アメリカでは明日トランプ新大統領が就任します。関税の問題やアメリカ第一主義など先行きが全く見えないので不安しかありません。それでは先週行われた会長幹事会の報告をいたします。●マイロータリー登録について: 寒川は先日まで第4グループの中で登録率がトップ(64.86%)だったのですが、ここへ来て茅ヶ崎湘南RCが66%になり一位の座を奪われてしまいました。まだ登録されていない方、是非登録をお願いします。●会員増強について: 寒川はやめた方はいらっしゃいませんが今年度の入会者は今の所0名となっております。皆様のご協力をよろしく願いいたします。●12/12に行われた地区会員増強委員会意見交換会があり私が出席したのですが、クラブ内の会員同士の対立で10名が一度に退会してしまったクラブの話などを聞くと、寒川は恵まれていると感じました。●地区危機管理セミナーについて: フジ

テレビの問題が巷を賑わせていますが、ロータリーとしても人権について日々気を付けていかなければならないとのことでした。●青少年交換留学生について: 先日皆さんにもご協力いただいたアンケートでは派遣クラブが受入れるという意見が多かったそうです。次年度(2025-26年度)は茅ヶ崎RCと茅ヶ崎湘南RCからそれぞれ学生が派遣され、次年度の受入れホストクラブは茅ヶ崎湘南RCと第9グループをお願いすることになりました。●2027-28年度ガバナー補佐: 寒川から出すことが決まっています。(24-25綾瀬→25-26茅ヶ崎→26-27綾瀬春日→27-28寒川) ●米山委員会より: 1/26面接試験実施予定。●1/24地区立法案検討委員会セミナー: 会長幹事欠席のため興味のある方は是非ご出席ください。さて、今日のプログラムは島村会員による職業奉仕の卓話です。ロータリーの五大奉仕は「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」ですが、中でも職業奉仕はロータリーの根幹であるといわれています。とても楽しみです。しっかり聞いてくださいね。

出席報告

会員数	出席計算会員数	出席会員数	暫定出席率	確定出席率
37名	35名	31名	88.57%	第2307回 77.78%
本日欠席者	石井会員、石腰会員、二見会員、加藤会員			

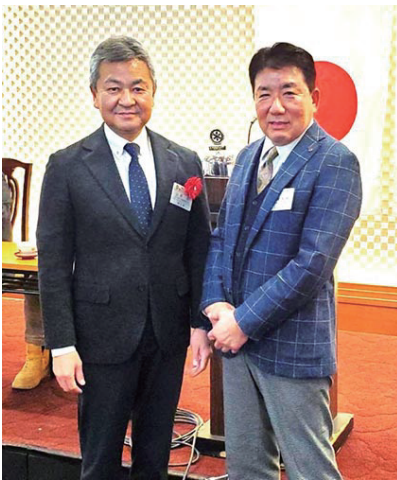
RI日本事務局より
ポールハリスフェロー感謝状とピン贈呈



PHFピンと感謝状:下里会員、PHF+3ピン:
秋本会員・三留会員、PHF+6ピン:内野会員

誕生祝 11月生まれ

山本哲会員



幹事報告 中野幹事

例会変更

茅ヶ崎中央、綾瀬、大和、各RC

週報受理

寒河江RC

その他受理

●RI

～2024-25年度下期クラブ請求書{RI人頭分担金:
\$39.25/人}(37名分227,994円を今月中に送金予定)

●国際ロータリー日本事務局

～ポールハリスフェロー感謝状、ピン贈呈{PHFピンと
感謝状:下里会員、PHF+3ピン:秋本会員・三留会員、
PHF+6ピン:内野会員}

●ロータリー米山記念奨学会

～下期普通寄付金のお願い(2,500円×37名=92,500
円を送金済み)

●台北士林RC

～創立49周年パーティ開催案内{4/10(木) 18:30～歓
迎宴、11(金)16:00～姉妹クラブ座談会、18:20～創

立記念パーティ 於:アジアワールドホテル}

●茅ヶ崎湘南ロータリークラブ

～外部卓話例会開催案内{2/19(水)18:30点鐘 於:茅
ヶ崎市商工会議所4階大会議室 19:00～20:卓話
講師:本田博己氏(前橋RC) 卓話後、懇親会 於:
スペインクラブ茅ヶ崎 会費:6,000円}→出席希望
者は事務局までご連絡ください

●交換学生 カミーユさん

～賀詞交歓会参加に対するお礼状

回覧

○タウンニュース1/10号、1/17号

出席報告 眞原クラブ管理運営委員

委員会報告・地区および地域出向者報告

国際奉仕委員会 下里委員長

本日、台北士林RC創立49周年記念訪問の出欠回覧を
回しています。一人でも多くの皆様にご参加いただけま
すよう、よろしくお願いいたします。

同好会報告

なし

第2309回スマイルボックス

石丸クラブ管理運営委員長

合計33,000円

◎小澤会長・中野幹事

島村会員、本日は職業奉仕の卓話よろしくお願いま
す。

◎島村会員

本日は卓話の機会をいただき、ありがとうございます。
す。

◎青木、秋本、石塚、石丸、磯川、井上(晋)、井上(稔)、
内野、金子、菊地、椎野、茂内、清水、下里、鈴木(郁)、高
波、中村(光)、中村(靖)、藤、眞原、三澤、三留、村松、森
嶋、山本(和)、山本(哲)、吉田、各会員

職業奉仕月間卓話:島村盛晶会員

村松奉仕プロジェクト委員

本日は「職業奉仕について」ということで卓話を進めさ
せていただきます。ロータリーの五大奉仕の中でなか
なかわかりづらいのがこの職業奉仕とされています。
ロータリーのまさに根本となる職業奉仕について、私
も含めて特に日の浅い新入会員の方々に理解を深めて
いただくために企画しました。本日の講師 島村会員は

昨年度まで地区の方で大変な経験をされたと同っております。今日はその経験から得た豊富な知識をクラブの皆様に還元していただけることと思います。

「職業奉仕月間卓話」 島村会員

改めましてよろしくお願い致します。1月が職業奉仕月間だと言うことを1月になると思い出しますが、職業奉仕というのがあったな…。そんな意識程度でいました。21-22年度、22-23年度、23-24年度と去年の6月まで3年間、地区職業奉仕委員会の方に出向をしておりました。どういう経緯で行くことになったのか思いおこせないのですが、今振り返ると地区に行き、勉強して来いと言うメッセージかなと思います。まったく不勉強のまま地区の職業奉仕委員会に行き、何をやる委員会なのかなと思ったら、職業奉仕について毎年1月に希望クラブを募って職業奉仕とはと言う卓話をして回るんだと。30クラブぐらいから毎年依頼があり、そこへ出向いて職業奉仕の啓発・啓蒙活動をやらせていただく。毎年7月から12月までの最初の4ヶ月で卓話の内容を煮詰めて作っていく作業をする。毎年同じ話ではつまらないので工夫を凝らしながら前年度経験されている皆様のご意見やそこでいただいた各クラブからの宿題などをブラッシュアップして次年度の作り込みをして行くと言うことです。ロータリーに入会して3年目、右も左もわからない、親睦活動しかしていなかった私は大変驚きました。ロータリーとは？ましてや各クラブの諸先輩方もたくさんいらっしゃる中で若輩者の私が卓話をするというのは大変重い仕事だなと思いました。もうこれは相当勉強して行かないと話すことができない。勉強しなきゃという状況に委員会に所属したことで追い込まれるようなスタートでしたが、そこで初めて本格的にロータリーとは？をマイロータリーのラーニングや諸先輩方に聞きながら、過去の資料を見返しながら、一生懸命調べに調べまくりました。大変勉強になりました。よくわからないまま入会してしまっていた3年間があつて、例会には来るけれど今一つ手応えみたいなものが感じられなかった時に勉強する機会が来た。これはすてきな、深いなと感じることができ、この3年間委員会に行っている中で本当にありがたい経験をさせていただいた。今日はその職業奉仕のお話になりますが、ロータリーとはなんぞや？というところのまさしく根幹に触れていくような部分でもありますので、特に私以降にご入会されている皆さまには、ぜひそういったところを勉強するきっかけになればいいかなと思います。そして先輩方には何回も聞いているような話だと思いますがお耳をお借りできたらなと思います。まず、職業奉仕の話をする前に振り返っておきたいことがあります。そもそも、ロータリーとは何を目的に活動する団体なの

でしょうか？これは、「ロータリーの基本理念」に奨励されています。ロータリーの目的は、1.知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。2.職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。3.ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。4.奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した声明です。その目的を達成するために、ロータリークラブ会員がクラブ内において行うべき奉仕活動を5つに整理したものが、標準ロータリークラブ定款の第6条に記載されている五大奉仕部門です。1つ目は、**クラブ奉仕**。クラブ奉仕とは、例会を通して、会員同士の関係をはぐくみ、積極的な会員増強計画を実行して、活気あるクラブづくりを行うことです。2つ目は、**社会奉仕**。社会奉仕とは、すべてのロータリアンが、地域の人びとの暮らしを豊かにし、より良い社会づくりに貢献することです。3つ目は、**国際奉仕**。国際奉仕とは、国際的なプロジェクトでボランティアをしたり、海外のパートナーとの協同活動を通じて、平和と相互理解を推進することです。4つ目は、**青少年奉仕**。青少年奉仕とは、インターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)、ロータリー青少年交換などを通じて、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援することです。そして、5つ目が**本日振り返る「職業奉仕」**です。この5つのうち職業奉仕以外の4部門は「・・に対して」という言葉を入れると理解しやすい。例えば、社会に対して奉仕する、クラブに対して奉仕する、国際社会に対して奉仕する、青少年に対して奉仕する、とその対象が分かりやすいのですが、職業奉仕だけは「職業に対して奉仕する」となってしまう意味が通じなくなってしまうため職業奉仕という言葉が難しく感じるのですが、「職業を通じて奉仕する」と考えれば少し分かりやすくなります。さてここでロータリーの誕生、職業奉仕の歴史について振り返ってみたいと思います。1905年ポール・ハリスによって「親睦」と「実業互惠」を目的としたロータリーが誕生しました。スタート時点では「奉仕」の理念はまだ無かった。ロータリークラブの会員間だけのエゴイズム的な相互扶助の方針には賛同できず、誘われても入会を拒否していたドナルド・カーターは、自分達が金儲けをするだけでなく、シカゴ全体の発展に繋げていく活動や、地域社会への貢献が大切であるとハリスに語り、地域貢献が大切であると気付かされたハリスは、社会貢献についてクラブ定款に書き加え、それを機にカーターも入会したというエピソードがあります。

そして職業奉仕の父とも言える人物、アーサー・シェルドンが奉仕を用いた販売哲学をロータリーに持ち込みます。シェルドンはミシガン大学の経営学部で販売学を専攻し、修士課程をトップの成績で卒業。当時開発されつつあった販売学の大家であります。シェルドンの販売学理論によれば、商取引というものは、売手買手の双方に満足なくして成り立つものではないということ、長期的に商売を成立させるためには、売手と買手の間に信用と呼ばれる信頼関係が確立されることが眼目であって、長期的に安定した利潤をあげることはこの信用という精神的境地の確立と表裏一体の関係にあると述べています。また彼は、どんな手段を講じようとも富を得たものが成功者としてもはやされた19世紀の利己的な経営手法を批判し、単に自分だけが儲けようという商売から脱して、商売とは他人に対してサービスすることであることを力説し、20世紀の実業人を成功に導く方法は利益を他人とシェアするというサービス学を遵守することであると説きました。さらにシェルドンは、持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を**サービスという言葉で表現しました**。日本でサービスとは「**価格が安いことや、特典**」などを指しますが、英語では「**奉仕**」や「**人の役に立つ**」という意味なのです。「店主や従業員の顧客への態度や気配り」「商品や業務に対する責任」「顧客や取引先そして従業員が感じる満足感と公平感」、これら全てを達成する為に奉仕(=サービス)が必要であり、「自身の職業に関わる全ての人に対する奉仕(=サービス)こそが企業の永続的発展と成功を保証する唯一の方法である」と提唱しました。シェルドンが、「サービス=奉仕」の取り込みに力を入れたのは、この考えがあったからなのです。これが、ロータリーにおける「職業奉仕」のスタートであります。職業奉仕が良く分からないというロータリアンの方々も、ご自身の職業でこの「職業奉仕」を常に意識され、既に日々実践されていらっしゃる事と思います。そして、1911年の第2回全米ロータリー連合会のポर्टランド大会において **He profits most who serves best.**「**最もよく奉仕する者、最も多く報いられる**」というシェルドンの標語が発表され、大会決議委員長はこれをロータリー宣言の最後に加えるべきだと提案し、標語はロータリーの世界に君臨し始めました。アーサー・シェルドンらの努力によって、「ロータリー活動の基本は自身の職業に関わるすべてへの奉仕である」というロータリーの根本原理が定着しました。職業奉仕は、ロータリアン一人一人が例会に出席し、他の会員との交流・親睦を通してモラルを高め、日常生活では自分の職業に真剣に取り組み、社員はもとより仕入先や顧客など周囲の人達のモラルを向上させ、業界の手本となり、その業界のモラルを向上させていくことなのです。クラ

ブの会員一人一人が、それぞれそれぞれの業界を受け持つて、職業奉仕の活動を続けていけば、やがては社会全体のモラルが高まっていくことになるのです。ポール・ハリスの「ロータリーへの私の道」に、「ロータリークラブの会員は、その一人一人が自分の職業とロータリーの理想とを結ぶ環である」と書かれています。そしてその翌年の1912年、先ほどの「ロータリーの目的」が制定されました。職業奉仕は、「目的」の第2項を土台としており、ロータリアンは「○職業上の高い倫理基準 ○役立つ仕事はすべて価値あるものという認識 ○社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする事」を奨励し、育むことが求められています。そして1932年、シカゴのロータリアンであったハーバード・テイラーによって「4つのテスト」が考案されました。1932年は世界大恐慌の真っ只中でありました。テイラーは大不況の中で破産の危機にある会社を救って欲しいと要請され、これを引き受けます。再生するには同業者には無い何かを育成しなければなりません。テイラーはその「何か」に社員の「人格」と「信頼性」と「奉仕の心」、言わば職業奉仕を選んだのです。その育成の指針として、会社の従業員が使える倫理上の尺度になる項目、4つのテストを作りました。これにより、見事に危機的な状況から会社を再生させる事に成功したのです。その後、1945年にRI理事会はロータリーにも4つのテストを取り入れるべきであると決定するとともに、2004年の規定審議会において4つのテストを明記した決議を行なっています。4つのテストは、「職業奉仕の理念を端的に表すもの」として、RIから多くの言語で出版されています。日常の商取引、職場や生活のあらゆる場面で、倫理的言動・行動を実践するための指針となっています。私達も改めて、職業人としてロータリアンとして、道しるべとなる4つのテストによって自身を律し、言動・行動をして参りましょう。その後も1987年、「職業奉仕」に関する声明が発表されるなど、時代の変化に合わせて考え方の小さな修正はされてきましたが、シェルドンやテイラー達が唱えた職業奉仕の理念は、今も脈々と我々に受け継がれています。そして現在の職業奉仕は、2016年の規定審議会によって採択された条文に記されています。「職業奉仕とは何か」はこの条文に書かれています。「職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念にしたがって自分自身を律し事業を行う」とあります。まずは、高い倫理基準と高潔性を兼ね備えた職業人として「奉仕の理念」「4つのテスト」を道しるべとし職業を遂行しましょう、それこそが「職業奉仕」ですよ、と明記されています。この部分は自分自身の内部へと矢印が向いている部分です。

そして、2016年に追記された箇所が「**自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えること**」と明記されています。クラブの奉仕プロジェクトにおいても自身の職業スキルを活かして、社会問題やニーズに役立てるための活動をしていこうということが書かれています。当クラブの創立50周年記念事業「ロータリーの泉改修」に全員で取り組んだ中で、各自の職業スキルを活かして建設関係の職業に就かれている皆様が金子実行委員長のリードの下素晴らしい事業ができたのもこの職業奉仕の考え方があったからと思うところです。自身の職業を生かした活動というのがクラブへの奉仕活動へ、結果的にはクラブ奉仕というところにも繋がってくるのだと思います。2008年RI国際協議会の全体会議において、渡辺好政RI理事がロータリーを「一本の樹」に例えて職業奉仕の位置づけを行いながら「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」の講演を行った際の資料によると(皆様は何度も見てこられた資料と話だと思えますが)、「1905年、ポール・ハリスら4名によって創始された最初のロータリークラブは、その歴史が示すように、初めに親睦・助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に水と栄養を送る「根」は「クラブ奉仕」であります。ロータリークラブ会員は、クラブという学校で相手のことに思いを馳せ、相手を助けるという『奉仕の理想』を学び、その真意が『共存共栄』であることがわかります。『クラブ会員』は、ロータリーの目的を基本として、H.テイラーによって実証されたロータリアンの行動規範である「4つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することによって、『ロータリアン』に進化してまいります。ロータリークラブ会員からロータリアンに進化してゆく過程の基盤には、A.シェルドンの『超我の奉仕』、『もっとも奉仕するもの、最も多く報いられる』が存在いたします。私たちは、この2つのモットーを1枚のコインの表・裏と考えながら日常の奉仕活動に邁進しております。ロータリーは「理念の高唱」に終わるのではなく「行動の哲学」なのであります。」 「クラブ奉仕」はロータリーの樹に水と栄養を送る「根」であり、職業奉仕はその上に成長する「幹」です。根から吸収された「水」と「栄養」はロータリーの根幹といわれる職業奉仕の「幹」に入り、幹の中にある「奉仕の理想」という導管を通して「社会奉仕」、「国際奉仕」、「青少年奉仕」という枝や葉に届き、そして「ロータリー財団」や「米山奨学会」という花を咲かせ、多くの「実」を結んでいます。クラブ奉仕を通じて会員相互が高め合い奉仕の理念を学び、それを自身の職業で実践する。高い倫理基準を持った高潔な職業人として成長し一層幹が太くなり、社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕によって多くの実を結ぶ。その根幹は「職業奉仕」であり、この樹こそがロータリーの姿で有り

ます。当たり前のことが書かれているのですが、日々の仕事の中で、生活の中で、ちゃんと自分の方に矢印を向けることができているかということを見ると、原稿を作りながら恥ずかしくなりましたが大変勉強になりましたし、渡辺好政氏の説明が非常にわかりやすくイラストと共に表現してくださっていることに本当に感謝を致しました。この部分が理解できていないまま日々のロータリー活動をして、上っ面の、つまらない、手ごたえのないものになってしまうと思います。ですから、「ロータリーの目的」だったり「五大奉仕部門の目的」だったり、そしてこの職業奉仕、クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、それぞれの持つ意味をきちんと理解しながら、それを成すための、皆さんで力を合わせるための親睦活動であり、日頃のこういった例会の活動としてそれを実践して行きながらチーム力を高めていこうということなんだろうと思いました。ぜひこの辺りを私の後に入会された皆様にはそれを実践していくために集っているということを改めてお感じいただきたい。何のために来ているのかということが根幹のところまで置いてきぼりになるとつまらなくなって退会に繋がってしまったのかな?手ごたえがなくなってしまうのかな?と思います。RIのHPにご自身から今学べる資料:マイロータリーがあります。登録がまだでしたらすぐにお教えます。このマイロータリーに入っていくと、勉強するための資料がたくさんあります。ただの読み物もあるし、勉強していくものもあるし、テストをしながら自分の理解度を試すこともできるようになっています。世界で行われている国際奉仕の事例、社会奉仕の事例、青少年育成の事例というものが毎月更新されたくさん紹介されています。やはりそこに自分から行かないと気づくことができないだろうなと思います。何のためにロータリーに入ったのかと感じた時には「ちょっと勉強してみよう」「ロータリーについてもう少し深く知ってみよう」と言うモチベーションをおこしていただけたらと思います。ロータリーを通して学んでいる「奉仕の理念」を職場に持ち帰り、職業で世の中に貢献し、奉仕する。また、その職業スキルをクラブの奉仕プロジェクトで発揮する。職業奉仕を実践しましょう!ご清聴有難うございました。



